

# 農地保全組合（農業者）が中心となり、合意形成を図ろうとしている事例

おなごはた  
（大分県日田市女子畑地区）

中山間地域 人・農地プラン

## 地域の状況

女子畑地区は、旧天ヶ瀬町内に位置する6集落により構成された地区。中山間地域等直接支払制度には、平成13年度（第1期対策）から取り組んでいる。

高齢化と担い手不足を背景に、集落協定の区域内の農地を保全するため、平成28年に農地利用調整組織である女子畑地区保全組合を設立。農家の意向を踏まえて農地集積・集約化に取り組んでいる。



## 取組内容

- 担い手を確保し効率的な農業を推進するためには、混在している稲作、畑作の団地化が必要との考えの下、保全組合の設立に合わせ人・農地プランを作成。品目毎に主要農家（中心経営体）に農地を集める団地化構想（地域の将来方針）を検討。
- 令和元年11月に保全組合で地権者のアンケートを実施。より有効な回答を得られるようグラフや農地利用図により地区の現状を説明した上で、品目毎の団地化構想に対する賛否、貸付農地の貸付先の変更の可否等の意向を把握。
- 県振興局はアンケートの結果や営農計画書のデータを反映した耕作者別、品目別等の地図を作成。
- 農地の利用調整は、保全組合と農地中間管理機構の現地推進員が連絡を密に取り合い行っており、地区内の農地の貸し借りは、全て農地中間管理機構を通じて実施。
- 保全組合の構成員は、土地改良区の役員や中山間直接支払の協定代表者を兼務。そのため、地区内の農地利用のあり方等、日頃より話し合いしやすい環境となっている。

## 成果

令和2年度内に中心経営体、団地化構想に理解ある地権者等を参集した話し合いを予定。  
保全組合（農業者）が主導して、中心経営体、地権者等が、品目毎の団地化という地域の将来方針について話し合い、合意形成を図る取組が進められている。

